

廃棄物の排出方法の説明

1. 土砂の浚渫

- 土砂の浚渫はバックホウ浚渫船またはグラブ浚渫船により行う。
- 浚渫位置についてはGPSを用いて確認を行い、記録する。
- 浚渫作業においては深さを音響測深にて確認しながら行う。
- アンカー等にて浚渫船を固定し、浚渫作業を行う。
- 浚渫土砂は排出海域への運搬のためにガット船に積み替える。



写真はバックホウ浚渫船。土砂は土運船に積み込む。



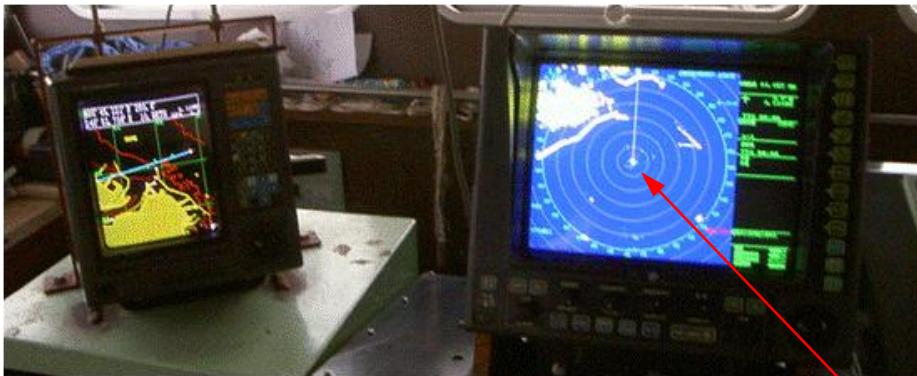
排出海域までの運搬のため、土砂をガット船に積み替える。

2. 土砂の運搬

- ・浚渫土砂運搬に使用する船舶はガット船 1 隻を配備する。
- ・浚渫土砂は、浚渫場所(外川漁港)から約 37km 離れた排出海域までガット船により運搬する。(漁港から排出場所までおよそ 2 時間程度)
- ・排出海域の位置確認は、ガット船に装備された GPS により行う。
- ・GPS には、あらかじめ排出海域の四隅の緯度・経度を入力し当該範囲を計器上で目視確認出来るようにしておく。
- ・排出海域への移動並びに投入時には、ガット船の操船者が逐次 GPS 上で自船の位置の確認を行う。
- ・航行中に排出は行わない。



外川漁港から排出海域まで片道 2 時間前後。風向きや波の加減によって航路は変更するので、一定にはならない。



矢印の先端が自船の現在位置。
GPS そのものは一般に販売されている車載のものと変わらない。

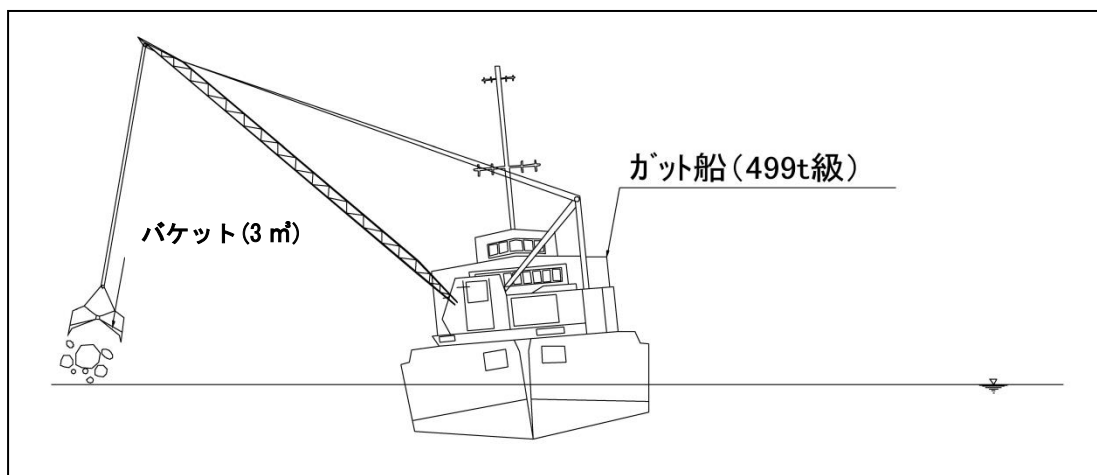
GPS による位置確認

自船の位置表示

3. 土砂の排出

(1) 排出作業

- 排出する海域は水深が深く、アンカーによる固定は不可能であり、また、海流や波浪等による影響が大きいため、排出海域において排出位置を GPS にて確認しながら、排出作業を行なう。また、排出地点が 1 か所に集中しないように、排出海域内を移動しながら均等に排出作業を行う。
- GPS にて確認した排出作業開始時の緯度経度は、「外川漁港海洋投入処分記録簿」に記入して保管する。
- ガット船は自船のコーミング部（積荷の収容部分）の土砂をバケット（クレーンの先についている開閉式容器）で掴み、船外へ排出する。このとき、積荷の土砂が偏ると船の転覆の危険があるので、偏らないように排出する方向の左右を定期的に切り替える。
- 航行中には排出を行なわない。

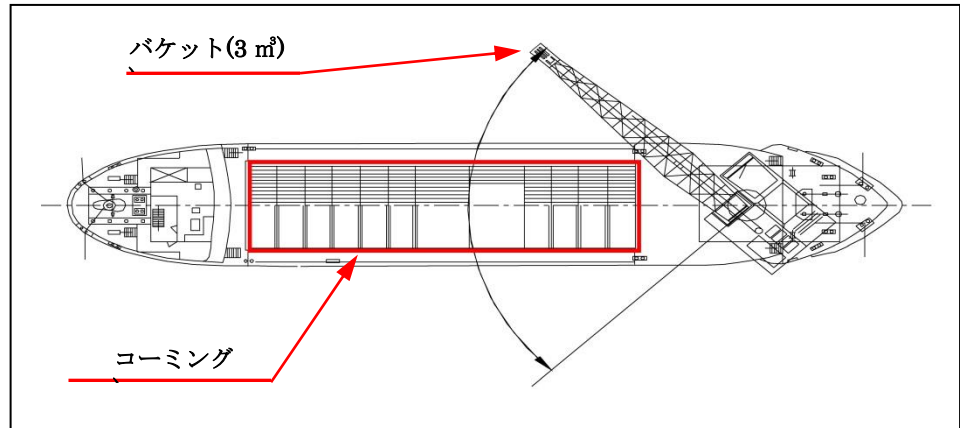


浚渫土砂排出状況図



浚渫土砂排出状況

上から見たガット船のクレーン可動範囲。この矢印の範囲でクレーンを左右に動かして土砂を排出する。実際にはアームの上下があるので、コーミング全域に届く。



浚渫土砂排出状況平面図

さきほどの写真とは逆側に排出中。水面の濁りが後方に広がっていることからガット船が少しずつ進んでいることがわかる



浚渫土砂排出状況

(2) 土砂の排出頻度

- 作業時間に制限(日の出から日没まで)があるため、1日あたり、1ないし2航海とする。予定されている排出量から、年間およそ40航海程度とする。

(3) 排出量及び排出時間

- 1航海当りの排出量は、約600 m³で(最大657 m³/1航海、日最大1314 m³)、最大排出回数は2航海/日とする。
- 排出量の確認は、ガット船内の積込の収容部分であるコーミング部から浚渫土砂を、バケットにより最大限に排出した後、コーミング内に船員が入り込みポールスタッフ等を使用して、取り残し量の厚み、面積を検収することで行う。
- バケットによる排出時間については、その時の気象海象条件により左右されるが、およそ90分である。排出作業の所要時間については、GPS航跡記録にて、その都度確認する。

- ・ 排出海域の出入りやバケットによる排出開始及び終了位置や数量等については、排出船に備え付けの「外川漁港海洋投入処分記録簿」に記載する。

(4) 使用船舶

- ・ 排出にはガット船を使用する。ガット船とは「グラブ付自航運搬船」の通称であり、浚渫や捨石等に用いられている。本排出作業に用いるガット船は 499 t 級でバケット容積は 3 m³、最大積込容量 657 m³の船舶を予定している。